

学校だより  
NO 8  
R6 9/17

# 敬 愛 (けいあい)

学校教育目標

一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る

甲斐市立敷島中学校  
編集 校長 山本成利

## 年輪祭に向かって・・・

朝夕はようやくしのぎやすくなってきましたが、まだまだ日差しは強く、日中は残暑が続いています。今週は、いよいよ年輪祭が行われます。これまで準備を重ねてきた成果が発揮されるよう、ご家庭でもご理解とご支援をお願いいたします。

さて、本校では、通知させていただいたように年輪祭を予定通り9月19日(木)・20日(金)に実施をします。また20日の体育部門の予備日ですが、今週末に雨の予報が続いていることから日程を変更し、24日(火)を予備日とさせていただきました。よろしくお願いいたします。さて、学校では、放課後まで全校生徒が年輪祭に向けて、体育部門の練習や学年合唱、学級合唱、全校制作や学級旗の制作にと日々頑張っています。(とても暑い日が続いているので、本校では時程表を変更するなかで、熱中症予防のため、工夫して取組を行っています)また、文化部にとっても大きな発表の場であるので、文化部の生徒たちもその準備を進めています。これまでの活動の成果を集大成し、『光』のテーマのもと、素晴らしい年輪祭を創り上げようと、一生懸命に取り組む姿が校舎やグラウンド等で見るができます。全校生徒の頑張りで、素晴らしい年輪祭となることを期待しています。保護者の皆様方にも、当日は、生徒たちの頑張る様子をご覧いただきたいと思います。敷島中学校全校生徒の絆の力を、ひとりひとりの生徒が光り輝き、学級が、学年が、全校が大きく成長していく様子を応援していただければと思います。よろしくお願いいたします。

敷島中学校の年輪祭には、「感動」との出逢いがあります

中学生にとって大切なことは、「感動」との出逢いです

「感動」とは、心がゆさぶられること

そのゆさぶりが大きければ大きいほど、君たちは成長します

君たちは今、まさに「感動」できる大きなチャンスに出逢っています

体育祭の練習や合唱の練習はしんどい

しんどいから意味が無いとか、勝てないからやっても無駄だとか・・・

でも、本当にそうなのでしょう

とにかく「やってみる」「やりきる」ことが大切です

物事の意味とか、やりがいとかは、何かをやる前からあるのではなく

実際にやってみるから生まれます

挑戦しよう、新しい自分へ

大きな感動を、確かな成長を実感できるように



## 気合！気迫！全力の声～全校ソーラン～

全校ソーランの練習が行われている。練習する度に、気合や気迫のこもった、全力の全校ソーランになりつつある。全校ソーランは、唯一の全校演技だ。敷中の歴史を積み重ねてきた様々な世代の学年・学級などの集団は、これまでも山あり谷ありの道を歩みながら、個性的な集団を築いてきた。そして、その過程で育まれる友人関係は、信頼感あふれるものが多く、敷中生の絆力(きずなりよく)の原点であり、伝統として受け継がれてきた。その信頼関係を支える根底にあるのは、ルールを守った生活や誠実な態度、そして年輪祭などの学校行事に、真剣に取り組む姿に違いない。いつの時代においても基本となる誠実な態度や一生懸命な姿勢はや

はり美しい。そして、その姿勢を貫くことこそが、仲間の絆の基盤であることを数中生は知っている。

「みんなでやる」のは、「ひとりかやる」のだ

「みんなでやる」のは、「他人（ひと）かやる」のではない

「みんなかやる」ためには

まず、「ひとりかやること」だ

ひとりの自分がやることによって

ひとりひとり、——みんなができる

誰かがやるのではない

世界にたったひとりの、この自分がやるのだ。



年輪祭に向けての誠実な練習態度と一生懸命な姿は無言のうちに仲間との信頼関係をつくる。誠実な態度か否か、一生懸命か否かは、誰の目からも明らかだからである。頑張ろう！数中生！！

## 「おもい」を含めた演奏がホールに響く

7月14日、YCC県民文化ホールでの県吹奏楽コンクールで金賞を獲得し、本校の吹奏楽部は西関東吹奏楽コンクールへの出場権を獲得しました。そして、まだまだ残暑が続くなか、9月14日（土）に埼玉県所沢市の所沢市民文化センターで西関東吹奏楽コンクールが開催されました。演奏順は29番目。各県の厳しい予選を勝ち抜いた西関東地区30校のなかで、東日本大会へ進めるのはたった6校。その切符をつかむための演奏がはじまりました。サポートメンバーやこれまで支えてくれた先生方、保護者のみなさんが、固唾を飲んで見守るなか、30人ひとりひとりがベストを尽くし演奏を行いました。最高の演奏でした……。県大会のときよりも数段レベルアップした本当に素晴らしい演奏でした。演奏が終わり大きな拍手を受けながら、緊張感から解放された安堵の気持ちとやり切った達成感で涙ぐんでいる生徒もいました。結果発表……。銀賞。でも金賞に値するような本当に素晴らしい感動的な演奏でした。

思い・想い・念い（おもい）・懐い（おもい）・慮い（おもい）……。人はカタチのない「心」や様々な「おもい」を言葉で表現します。吹奏楽部員は、この大きな舞台上、様々な「おもい」をカタチにして届けてくれました。これまで支えてくださった方々へ「おもい」のたくさんつまった素晴らしい演奏だったと思います。ここに、吹奏楽部の部長である池谷心音さんのコンクール本番前に部員へ贈ったメッセージを掲載します。

結びに、これまでご指導いただいた美友先生、恵美先生、外部指導者の平松さん、大会当日引率にいらした藤原先生、望月先生、これまで支えていただきました保護者の皆様方に改めて感謝申し上げます。

私たち3年生にとって、3年間の集大成である「第30回西関東吹奏楽コンクール」本番になりました。

私は、30人のステージメンバー全員に、「今まで頑張ってきたから大丈夫。仲間のことを信じて演奏してほしい」そして、「音楽を楽しもう！今までやってきたことを全部出し切って最高の7分間にしよう」と話をしました。

今まで不安なことや苦しいことがたくさんありました。

でも、どれだけ不安で、どれだけ苦しくても、決してネガティブな言葉はつかっちゃだめだと私は自分自身に言い続けてきました。

今まで、みんなよく頑張ってきたと思います。あとは出し切るだけ。この仲間がいるんだから、信じて前に進もう。これまで、いっぱい練習してきたのだから大丈夫！

本番は、緊張するだけの7分間で終わってほしくないし、終わりがたくない。

私たちの今日の目標は、「どの学校より、聴いている人たちを感動させよう！」です。

今まで支えてきてくださった方々へ、感謝の気持ちが伝わるよう、

最高の演奏をしよう！

さあ本番！

私たちの演奏を届けよう！！私たちにしか奏でることができない数中サウンドを！！

（吹奏楽部 部長 池谷心音さん）

